

「GRIT=やり抜く力」

今、世界の教育界で「GRIT（グリット）」という言葉が重要視されています。アメリカの大学教授アンジェラ・ダックワースさんが書いた「GRIT」という本が世界的ベストセラーになって、広く知られるようになりました。「GRIT」という英語は、日本語では「やり抜く力」と訳されています。ダックワースさんは、研究の結果、学者・ビジネスマン・アスリート・アーティストなど、様々な分野で大きな成果を成し遂げた人はみな共通して「GRIT」を持っており、大きな目標に到達するためには「才能」よりも、「GRIT=やり抜く力」すなわち「情熱」と「粘り強さ」が必要であると結論づけています。

「やり抜く力」を伸ばすためには、まず自分の好きなこと、情熱を傾けられることを見つけることが大切ですので、「情熱」と「粘り強さ」を身に付ける機会として、学校の部活動や学校行事が重要になってきます。ダックワースさんも、「課外活動は絶対にすべきである、何かをやりとおした経験がある人は、やり抜く力が強い」と言っています。過酷な試練や困難があっても絶対にあきらめないで乗り越える力、一つのことじつくりと粘り強く取り組む力の方が、生まれ持った能力よりも大切だということです。

「やり抜く力」のある人は、失敗を恐れずにチャレンジを続けます。多少の困難があっても「どうせ無理」と言わず、「どうやったらできるだろうか」と前向きに考えて努力し続けることで目標に近づきます。能力は、目標と努力によって伸ばすことができます。オリンピックのメダリストもノーベル賞受賞者もみな「目標」と「努力」があったから大きな成果を手にする事ができたのです。目標に向けて、最初の情熱を失うことなく、同じ姿勢で努力を続けることこそが「才能」と呼ぶべきものなのかもしれません。

本校では、学習・部活動・学校行事を三本柱として、学力向上・人づくりに取り組んでいます。「やり抜く力」すなわち「情熱」と「粘り強さ」をもって取り組めば、学習でも部活動、学校行事でも大きな成果をつかむことができることでしょう。